2026 年 2 月 8 日　降誕節第 7 主日礼拝次第

主日礼拝

前　　奏　　（黙　想）
招きの言葉　　列王記下4章 34～35 節(旧約 583 ページ)
讃　美　歌　　157（いざ語れ、主の民よ）
主の祈り　　＜A＞（讃美歌93－5）
詩編交読　　詩147編 1～11 節（交読詩編 164 ページ）
聖　　書　　マルコによる福音書2章1～12 節（新約 63 ページ）
祈　　祷
讃　美　歌　　516（主の招く声が）
説　　教　　「わたしはあなたに言う」 田中雅弘牧師
讃　美　歌　　458(信仰こそ旅路を)
信仰告白　　使徒信条＜A＞（讃美歌93－4）
献　　金
讃　美　歌　　88（こころに愛を）
派遣祝福
後　　奏　　（黙　想）
報　　告
※讃美歌は原則として全節を歌います

主の祈り A（讃美歌21　93－5－A

天にまします我らの父よ、ねがわくはみ名をあがめさせたまえ。
み国を来らせたまえ。みこころの天になるごとく　地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を　我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ。
国とちからと栄えとは　限りなくなんじのものなればなり。　アーメン。

聖　書　　マルコによる福音書2章1～12 節

中風の人をいやす

1 数日後、イエスが再びカファルナウムに来られると、家におられることが知れ渡り、 2 大勢の人が集まったので、戸口の辺りまですきまもないほどになった。イエスが御言葉を語っておられると、 3 四人の男が中風の人を運んで来た。 4 しかし、群衆に阻まれて、イエスのもとに連れて行くことができなかったので、イエスがおられる辺りの屋根をはがして穴をあけ、病人の寝ている床をつり降ろした。 5 イエスはその人たちの信仰を見て、中風の人に、「子よ、あなたの罪は赦される」と言われた。 6 ところが、そこに律法学者が数人座っていて、心の中であれこれと考えた。 7「この人は、なぜこういうことを口にするのか。神を冒瀆している。神おひとりのほかに、いったいだれが、罪を赦すことができるだろうか。」 8 イエスは、彼らが心の中で考えていることを、御自分の霊の力ですぐに知って言われた。「なぜ、そんな考えを心に抱くのか。 9 中風の人に『あなたの罪は赦される』と言うのと、『起きて、床を担いで歩け』と言うのと、どちらが易しいか。 10 人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう。」そして、中風の人に言われた。 11「わたしはあなたに言う。起き上がり、床を担いで家に帰りなさい。」 12 その人は起き上がり、すぐに床を担いで、皆の見ている前を出て行った。人々は皆驚き、「このようなことは、今まで見たことがない」と言って、神を賛美した。

讃美歌157 番

1　いざ語れ，主の民よ，
「味方なる　神ともに
いまさずば　敵せまり
その炎　燃えさかり
わが魂　のみつくさん」。

2「味方なる　神ともに
いまさずば　わざわいは
あふれくる　大水の
恐るべき　波となり
わがいのち　押し流さん」。

3　ほめ歌え　主のみ名を。
からみつく　網を裂き
逃れ去る　鳥のごと
わが魂　逃れたり。
主のみ名に　助けあり。

讃美歌88番

心に愛を　豊かにみたし
日ごとのわざに　つかわしたまえ

讃美歌 516番

1　主の招く声が　聞こえてくる。
日ごとにやしない、新しく生かす、
私たちを　招く声が。

2　呼ばれるこの身は　力も無く、
この世の重荷と　わずらいの中で
くびきを負い、あえいでいる。

3　み声に応えた　聖徒たちの
歩みに従い、私たちもまた
主の名を身に　帯びて進もう。

4　新しい課題も　日々のわざも
十字架を負われた　主が与えられた
つとめとして　励んでゆこう。

5　主の招く声が　聞こえてくる。
こんなに小さな　私たちさえも
みわざのため　用いられる。

讃美歌458番

1　信仰こそ旅路を　みちびく杖、
弱きを強むる　力なれば、
こころ勇ましく　旅を続け行かん。
恐るべきものは　この世になし。

2　わが主をかしらと　仰ぎ見れば、
ちからの泉は　湧きて尽きず。
恵みふかき主の　み傷示されて
わずかに残る火　ふたたび燃ゆ。

3　主イエスの足跡　たどりゆけば、
けわしき山路も　越え行くを得ん。
疲るることなく、迷うこともなし、
ひたすら御神へ　近づきゆかん。

4　信仰こそわが身の　杖と頼まん、
炎も剣も　なにかはあらん。
代々の聖徒らを　強く生かしたる
いのちの聖霊　与えたまえ。